



# ふくおか 文化財だより

Vol.6 2016年12月号

～ここにも遺跡！～

## 神社のあるところ遺跡あり！

すみよし

### 博多区 住吉神社遺跡

今年も早いもので残すところ1ヶ月。お正月もすぐです

ね。お正月といえば、初詣！福岡市内には神社の名前がつい

た遺跡がいくつかありますが、今回は住吉神社遺跡をご紹介します

ます。その名のとおり、筑前

国の一ノ宮「住吉神社」

周辺に広がる遺跡です。こ

れまでに3回の発掘調査

が行われており、当地に生

活していた人々の様子が

少しずつ具体的にわかって

きています。近年実施された3次調査では、祭祀を思わせる素

焼きの皿を多量に捨てた溝などが見つかっており、住吉神社に

深く関係した人々の屋敷があったと考えられています。まだまだ、

わかっていないことが多い遺跡ですが、今後発掘調査を重ねる

につれて、神社創建の奈良時代から中世、江戸時代と連綿と

続く当時の人々の生活が解明されていくことが期待されます。

初詣だけでなく、クリスマスのイルミネーションが綺麗な前面道

路や、御朱印も人気の住吉神社。お出かけの際は、神社とそ

の周りに広がる歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

※現在は発掘調査は終了しており、遺跡はすでに埋め戻されています。紹介した出土品は整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行したのちに埋蔵文化財センターに収められ、閲覧や展示に活用されます。



屋敷周りの区画溝で出土した大量の皿

さいし

# →博多の片隅に残る中世

～アプリを使って見に行こう～

ふげんどう  
普賢堂通りの風景



通りの角度に注目

中世日本最大の国際貿易都市として知られる博多の町は、15世紀の中頃には1万戸を超える家屋が建ち並び栄えていました。

しかし16世紀に入ると町は何度も戦火に焼かれ、天正15年（1587）に豊臣秀吉が博多を訪れた時には一面の荒野となっていました。秀吉によって復興された博多の町の区画をたいこうまちわ「太閤町割り」と呼び、縦横の街路が直角に交わる現代の博多の町並みの基礎となっています。

しかし御供所通りごくしよを歩いてみると、上呉服町の普賢堂通りかみごふくまちは御供所通りに完全に直角ではなく、北側に若干ぶれていることに気がつきます。このズレの原因は何でしょうか。

実は普賢堂通りの街路はしょうふくじ聖福寺の建造物の基準線と平行になっています。中世聖福寺の北西側に聖福寺に属する町人が居住する街区があったことは、絵画資料や古文書からも確認することができます。聖福寺の影響が強かったこの区画には、「太閤町割り」の後も古くからの町割りが引き継がれたと考



えられています。博多の片隅に残る中世をあなたの目でぜひ確かめてみてください。

今回紹介したエリアは、スマートフォンアプリ【福岡歴史なび】の散策ルート「1. 中世博多の繁栄」に掲載されています。周辺の文化財情報も満載です。まずはアプリをダウンロード！

# →発掘報告書みてみませんか

まいぞうぶんかざい  
～埋蔵文化財センターだより～

福岡市埋蔵文化財センターには、全国から送られてきた発掘調査報告書や専門雑誌、専門書、概説書など考古学や関連諸科学関係の図書が約95,000冊収蔵されています。

これらは、二階の図書室にて、どなたでも手にとってご覧いただけます。

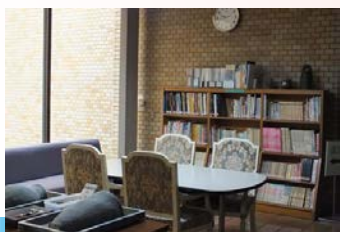
また、一階の図書コーナーには、「まんが日本の歴史」から展示図録まで、お子様から一般の皆様までお楽しみいただける本をならべています。



福岡市内はもちろんのこと、佐賀県の吉野ヶ里遺跡や青森県の三内丸山遺跡、奈良県の藤ノ木古墳など有名どころの発掘調査報告書もそろっています。中国や韓国で刊行された報告書もたくさんありますよ。

貸し出しは行っていませんが、コピーサービスはあります（実費）。「報告書は見たいけど、どうやって探したらいいのかわからない」という方には、職員がお手伝いいたします。モノはた

めし、ご利用になってみませんか！やみつきになるかも！



一階ロビー 図書コーナー



たまちゃん コウコ しかさん

たもんやぐら おおぎざか  
→多門櫓・扇坂見学会に100人が参加

こんせき  
～地下に眠る往時の痕跡と今に生きる職人技～

11月19日、多聞櫓と扇坂のガイドツアーを実施しました。前日の雨で足元の悪い状態でしたが、約100人の方に参加いただきました。ツアーはまず扇坂と扇坂御門の発



扇坂御門の瓦敷遺構

掘調査現場に向かいました。扇坂御門では門柱を立てた礎石や、門の前に舗装として敷き詰めた瓦敷遺構が見つかり、現在は失われてしまった門の大きさや構造がわかってきました。扇坂部分では基礎工事として岩盤を加工した跡や、近代に埋められた石垣などが見つかっています。

多聞櫓では解体修理中の建物内部を見学しました。参加者は、普段見ることのできない多聞櫓の壁の内部を見ながら、壁を解体して発見したこと、復元する際の伝統的技術などを工事担当者から説明を受けました。

また、多聞櫓の修理工事で実際に使用する瓦への記名会も開催しました。記名いただいた瓦は、現在修理中の南隅櫓に使用させていただきます。



ありがとうございました。

←多門櫓内の壁工事について解説

～埋蔵文化財発掘ミュージアム～

# →文化財の本当の価値は50年後にわかる？

いじ  
西区飯氏

かぶとづか  
兜塚古墳

兜塚古墳は西区飯氏に所在す  
ぜんぼうこうえんふん る前方後円墳で、いまじゆく 国史跡・今宿古

墳群の1つです。この古墳の上に平安  
時代後期の経塚\*があったことを知る人は  
少ないのではないのでしょうか。

昭和33（1958）年、古墳で土取りが行  
われた際、一本の銅製経筒\*が発見されまし  
た。この経筒は大切なものだということで、地元  
で保存会が結成され、その後福岡市に寄贈さ  
れました。当時は日本全国で発掘調査が大々  
的に始まる前で、埋蔵文化財に対する一般の理  
解がまだ不十分だったころのこと。骨董品として売  
られ、行方が分からなくなることの多い経筒が守ら  
れたことは奇跡といってよいかもしれません。

この経筒は、全く同じ形のものが奈良国立  
博物館にあること、さらに平成20（2008）

ふるその  
年に古園遺跡（佐賀県唐津市）の発掘  
調査で出土したことで、その評価が定まりま

した。文化財の本当の価値がわかるまで

にはそれなりに時間がかかります。それ

も地元の方々の理解があったからこ

そ。「文化財保護の精神、ここ

にあり」。地元の方々には

頭が下がります。



兜塚古墳出土の銅製経筒

（福岡市博物館所蔵）

\*経塚：仏教の経典を地中に埋めた遺跡

\*経筒：経典をおさめた容器

# → 12・1月のイベント情報

## 12月

- 17日 埋蔵文化財センター考古学講座 第7回  
「中国陶磁にみるミニチュア人形の世界」  
講師：小林 仁 氏（大阪市立東洋陶磁美術館）

## 1月

- 1日 うたがわらほうねんししまい  
宇田川原豊年獅子舞（西区宇田川原 宇多神社）  
（市指定無形民俗文化財）
- 1日 いまじゆくあおきししまい  
今宿青木獅子舞（西区今宿上ノ原 八雲神社）  
（市指定無形民俗文化財）
- 2日 かねのくま とび  
金隈の鳶の水（博多区金の隈1 宝満宮ほか）  
（市指定無形民俗文化財）
- 7日 いまじゆくうえまちてんまんぐう  
今宿上町天満宮鬼すべ行事（西区今宿3）  
（市指定無形民俗文化財）
- 9日 いまづじゅういちにち  
今津十一日まつり（西区今津 登志神社）  
（市指定無形民俗文化財）
- 14日 いしがま  
石釜のトビトビ（早良区石釜）  
（市指定無形民俗文化財）
- 15日 しかうみじんじゃほしやさい  
志賀海神社歩射祭（東区志賀島 志賀海神社）  
（県指定無形民俗文化財）

## 福岡市経済観光文化局文化財部

住所：福岡市中央区天神 1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理・整備・活用に関すること

文化財保護課 TEL:092-711-4666

福岡城跡と鴻臚館跡に関すること

大規模史跡整備推進課 TEL:092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL:092-711-4667

埋蔵文化財センターに関すること

埋蔵文化財センター TEL:092-571-2921

ホームページ「福岡市の文化財」

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも  
情報発信中！

